



# 全大教

全国大学高専教職員組合 発行所  
Faculty and Staff Union of Japanese Universities

毎月1回10日発行 (1部30円) 組合員の購読料は組合費に含まれています

第256号 2010年10月10日

全大教のホームページ <http://www.zendaikyo.or.jp>

◆全大教の紹介  
◆大学・高等教育に関する情報など

◇情報の提供やお問い合わせは全大教情報宣伝部まで  
Eメール <josen@zendaikyo.or.jp>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-14 朝日神保町プラザ201  
TEL 03 (3262) 1671 / FAX 03 (3262) 1638

## 私大からも参加得て高等教育政策を議論

### 全大教未加盟組合も含めて60単組、206人が参加



主催者あいさつをする中嶋委員長(開会集会)

## 全大教第22回 教研集会開催

全大教は、横浜市立大学において9月17日～18日の日程で全大教第22回教研集会を開催しました。

本集会には、日本私立大学教職員組合連合の丹羽徹中央執行委員長よりご挨拶を頂き、高井美穂文部科学大臣政務官、日本教職員組合、全日本教職員組合からメッセージが寄せられました。

横浜市立大学にて 9/17-18

# 大学の発展を社会の共通認識に

集会テーマである「大学の発展を社会の共通認識にするために」に沿って活発な交流・討論および意思統一が行われ、今後の取り組みに生かすことの出来る集会成为りました。

### 記念講演

工学院大学の蔵原清人氏から『われわれはどんな大学をめざすのか』と題して、大学をめぐる情勢と大学の今日的意義、法人と大学の関係や教授会自治の必要性および学長のリーダーシップについて話されました。

### 国公私の違いを超えて

本教研集会では、今回初めて国立・公立・私立という設置形態の違いを超え、大学・高等教育の充実について、大学人が一同に会する「教育研究の現場から高等教育政策を検証する」国公私立の枠組みを超えて「分科会を設けて、交流・議論を行いました。その中では、まず日本私大教連から「私立・国立同等の原則」が提言された。今後の「設置形態を超えた高等教育政策」を語る上で非常に大きな一歩となりました。

### 各分科会の議論内容

#### ◆法人制度と教育・研究

学長選考における学長選考会議のメンバー選出について、国立大学法人法の規定が曖昧で、見直しの必要性が強調されると共に、学内での意向投票の権限を引き上げる為の正統性の裏付けを検証しました。

また、法人制度下での幹部人事における文科省異動人事による理事の問題に絡み、各大学での幹部人材育成と併せて考えていく必要性が議論されました。

#### ◆教職員の労働環境・権利擁護

退職後の不補充等により教員の多忙化が各大学で常態化している現状や、待遇・労働条件の悪化が再確認され、多忙化の原因を探り問題を切り分け全大教として取り組む問題と、各単組で取り組む問題とに分けて考える必要性が議論されました。

職員については、法人化後に採用された職員と古くからいる職員との意識のずれの問題や、「専門家」と「ジェネラリスト」どちらを目指すべきなのかといった問題意識のあり方等が議論され、今後事務職員メンバーリストを立ち上げ、

#### ◆過半数組合作りと魅力ある組合

各大学における組合の現状と拡大についての交流を中心に、チェックオフ協定の必要性や、組合活動のあり方、拡大を行う上で組織率の低い事務職員の加入促進をどのようにして進めるかといった問題に

### 今月の紙面

◆鹿大教職組はボーナスカット阻止の重要な成果をあげました  
◆全国単代会議、労働セミナーを開催  
◆高専機構との団体交渉の概要報告  
◆全国青年交流集会、総会を開催

◆文科省意見、議員要請、記者会見報告  
◆単組からのレポート・京大・大分大  
◆「概算要求シリング問題で総長・学長と会見」  
◆わたしもひとごと

◆大学人インタビュー  
東京大学教授 鶴田 啓 氏

